

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、改善を図る本コーナーも、連載5年の節目を迎えた。そこで、今号は、本コーナーでおなじみの先生方に、これまでを振り返りながら指導ツール改訂の意義について語り合ってもらった。

## 指導ツールに対する考え Before

**高橋** 学校で長年使われているもの、先輩から受け継いだものをそのまま使うことが多かった

**岡本** 教師が知りたい生徒の情報を効率的に収集するという目的のものが多かった

**柳井** 指導ツールを作成したり、改善したりするための観点が分からなかった

### 検討メンバー



群馬県立  
高崎東高校  
**高橋真人**  
たかはし・まさと

◎教職歴 16年。同校に赴任して2年目。教務部。数学科。

**学校プロフィール** 全日制/普通科/共学/1学年約200人/2019年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、群馬大、埼玉大などに17人が合格。私立大は、獨協大、法政大などに延べ110人が合格。



埼玉県・私立  
武南中学校・高校  
**岡本眞一郎**

おかもと・しんいちろう  
◎教職歴 37年。同校に赴任して2年目。広報部。英語科。

**学校プロフィール** 全日制/普通科/共学/1学年約400人/2019年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、千葉大、東京工業大などに29人が合格。私立大は、上智大、早稲田大などに延べ660人が合格。



宮崎県立  
延岡商業高校  
**柳井健二**  
やない・けんじ

◎教職歴 27年。同校に赴任して1年目。教頭。

**学校プロフィール** 全日制/商業科、会計科、流通経済科、経営情報科/共学/1学年約200人/2019年度進路実績(現役のみ)/国公立大は、大分大などに4人が合格。私立大は、久留米大などに延べ26人が合格。短大、専門学校進学55人。就職92人。

## 指導ツールに対する考え After

**高橋** 「生徒が取り組みやすいか」「生徒が前向きになれるか」を考えながら、指導ツールを主体的に改訂するようになった

**岡本** その時々学びを振り返るなどの、「生徒目線」で指導ツールを捉えることが大事

**柳井** その指導ツールを使って、どんな指導を実践することを目指すのかという、「そもそも」を語る機会を意識的につくりたい

### 指導ツール改訂の重要な観点は 教師目線から生徒目線

**編集部** 本コーナーは2015年4月号より、様々な指導ツールを改善すべく、全国の先生方と議論を行ってきました。まずは、これまでの改訂についての感想をお願いします。

**岡本** 全体を通して、教師が知りたい情報を集めるといった機能を担っていたツールが、先生方との議論を経て、生徒にその時々学びを振り返らせるツールに改訂されるケースが多かったと思います。ツール改訂においては、「生徒目線」が重要なのだと気づきました。

**柳井** 例えば「未来づくりシート」(P.45)の改訂前は履歴書、改訂後はポートフォリオ、というイメージですね。効率的に生徒の情報を知るツールが、生徒とのコミュニケーションツールとなってきました。

# 指導ツール改訂の意義

5年間で取り上げたツールの学年別テーマ一覧

ツール 使用学年	シート	掲載年	月号
1年生	1年生 初期指導の面談ツール「未来づくりシート」	2015	4
	1年生導入期(4月から夏休み前まで) 学習計画・記録表	2016	4
	1年生 夏休みの振り返り指導ツール	2015	8
	1年生秋 進路志望調査用紙	2016	10
2年生	2年生1学期 模試への意識づけシート	2018	4
	2年生・夏休み前後 オープンキャンパス指導ツール	2015	6
	2年生2学期 第1志望研究	2018	8
	2年生2学期 ポートフォリオ	2019	8
	2年生3学期 受験シミュレーションシート	2017	12
	2年生3学期 志望理由シート	2018	2
	3年生0学期 学習計画・記録表	2016	12
	3年生0学期 出願書類作成用 調査用紙	2017	2
	2年生春休み前(3年生0学期) 学習点検シート	2016	2
3年生	3年生夏休み前 弱点克服シート	2017	6
	3年生夏休み 志望校別過去問研究	2016	6
	3年生2学期 学習予定表	2017	8
	3年生2学期後半 面接対策指導ツール	2015	10
	3年生12月 三者面談シート	2015	12
	3年2学期 志望校検討会資料	2019	10
	行事振り返りシート	2016	8
学年横断	全学年 年度初期 年間目標達成シート	2017	4
	全学年 進路講演会 振り返りシート	2017	10
	全学年共通 夏期課題一覧	2018	6
	全学年 学期リフレクションシート	2018	10
	1、2年生 模擬試験振り返りシート	2018	12
	1、2年生 三者面談シート	2019	2
	「課題研究」ルーブリック	2019	4
	探究学習指導・共有シート	2019	6
	全学年 部活動目標達成シート	2019	12



左記一覧のツールはすべて加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」もしくは該当号のサイトをご覧ください。

- 2015年4月号からスタートした本コーナーで扱った指導ツールを、学年別に一覧化した。進路指導や教科指導、部活動、学校行事など、多様なテーマの指導ツールを取り上げてきたことが分かる。本コーナーで改良した指導ツールは、現在も上記のサイトでダウンロード可能であるが、ぜひ、「どのような指導ツールが、どのような意図をもって改訂されたのか」を、検討メンバーの対話の中から読み取っていただきたい。

**高橋** 担任と生徒、生徒同士、学年間など、学校を縦や横につなげるような指導ツールの改訂も多かったと思います。

**岡本** 3年生0学期の「学習点検シート」(本誌16年2月号)は、生徒にその時点の計画を書かせるだけでなく、書いたことを基に、生徒同士で対話させるシートへと進化しました。

**柳井** 指導ツールについて先生方と議論する中で、ツールのそもそもの目的を問い直し、「書かせるよりも、面談で問うべきではないか」などと、生徒へのアプローチが変わることもありました。ツールについての議論が、指導の本質を考える機会になっていったと思います。

## 指導の本質を問い直す 対話の機会の重要性を実感した

**編集部** 指導ツール改訂の醍醐味は、表面的な改善ではなく、指導の本質を問い直す部分にあるということですね。

**高橋** 学校で長年使われている指導ツールを、その目的をよく考えず、前例踏襲的に使っていたこともありました。どのような状況の生徒に、何を目的に、どんな指導ツールを使って、どのように働きかけるのかなどを整理する必要性を、議論を通じて実感しました。

**柳井** 行いたい指導の本質を考えれば、Afterツールよりも Before ツールの方が自校には適していると思ったこともあります。「進路講演

## 指導ツール改訂の意義

会 振り返りシート」(本誌17年10月号)は、将来の自分と今の自分を接続するという点はうまく改善されましたが、社会課題に対する意識が十分に醸成されていない生徒も少なくない本校では、改訂前の方がよいと思いました。

**岡本** どういうフォーマットのツールか、ではなく、何のためのツールか、という目的を押さえることが最も重要な視点です。「夏期課題一覧」(本誌18年6月号)を改訂した際、夏期課題の意義を話し合う中で、主体的な学習を促すために「夏に身につけたい力」を生徒に聞くという発想が私の中に生まれました。指導についての「そもそも」を話し合うことの重要性を実感した瞬間でした。

**柳井** 検討メンバーとして参加する中で、私は、物事を批判的に捉えることの大切さを学びました。そして、自校の指導についても、なぜそうなっているのか、何を目指しているのかといった、「そもそも」を深掘りしたいと思っています。学校の会議の多くは情報伝達が中心ですが、指導の本質や教育活動の目的を問う直す姿勢で話し合う時間も必要ですし、それは自分のような管理職が、率先してつくるべき時間なのだと考えています。

同じ高校の教師が自校で  
ツールを改訂するために

**編集部** 本コーナーに検討メンバーとして参

改訂ツール「未来づくりシート」(2015年4月号)をさらに改訂!  
若手教師による面談ツールのバージョンアップ

## 未来づくりシート ～夏休み前～

1年5組( )番 名前( )

未来づくりの土台  
(振り返り)

・1学期に自ら取り組んできたことで、一番印象に残っていること、やってきて充実感を覚えたことは何ですか?

・困ったことや悩みはありますか?

・1学期に「やれば良かった」と感じたことはありませんか?

つくりたい未来

( 4年制大学・短期大学・専門学校・就職・その他 ) ( 県内・県外 )

→ \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ ←具体化したかな?

★その学部に必要な受験科目は?

国(現古漢)・英・数学(ⅠAⅡBⅢ)・理科(生物物理化学地学)基礎

社会(地理A B)・日本史(A B)・世界史(A B)・現社・政経・倫理

→ \_\_\_\_\_ 教科 \_\_\_\_\_ 科目

・オープンキャンパスの予定: 月 日( )に \_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 学部を見てく  
何をしてくる? ① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

君の夏の決意

★夏休みはまとまった勉強時間を確保するチャンス!!

学習目標を3つ立てよう!! ←達成内容を書く

1 \_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_

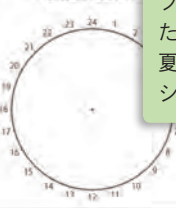
夏の1日の目標勉強時間!! (有意義な学習時間の確保を!)

1日 \_\_\_\_\_ 時間、勉強をする!!

※余談ですが、先日予備校に行きました。一橋大学を目指す学生が「1日

12時間勉強!!」と書いていました。目標を決めた学生は強い!!

▼夏の1日の過ごし方



加した多くの先生が、「こうした指導の本質を問う直すような話し合いの場を自校でもつくりたい」とおっしゃっていました。ただ、その一方で、先生方に「そもそも」を話し合う時間的な余裕がないというのも事実です。

**岡本** 学校のオフィシャルな会議で、しかも全教師が参加する形での実現は難しいでしょう。私は、井戸端会議的に自由に語り合う雰囲気をつくっていく方がよいと思います。

**高橋** 若手の先生に「このツール、どう思う?」

私の後輩の先生が、異動先の高校で運用したシートです。4月には既存の「未来づくりシート」をしましたが、その高校では、1年次の夏季休業中に必ず1人1校オープンキャンパスに行くため、その意識づけを目的に既存のシートを改訂して「夏季休業前」バージョンを作成しました。学習時間の円グラフを設けたり、後輩の先生自身が研修で知った学習時間に関するエピソードを加えたりして、夏休みの過ごし方について意識を高めるというシートに仕上げています。





連載5年！人気の改訂ツール

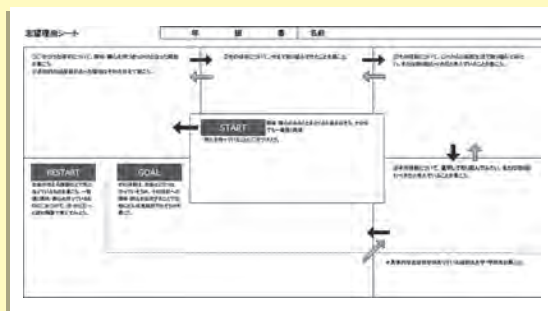
その1 1年生初期指導の面談ツール  
「未来づくりシート」 (本誌 2015年4月号)

高校入学直後の1年生向けの「進路希望調査」を「未来づくりシート」として改訂。中学校までの経験を土台に、自分のやりたいこと、強みなどを記入させる。未記入部分も、記入できない・しない理由を面談で探ることなどに活用することを提案。生徒の自己肯定感を高めることを重視した問いかけにあふれた指導ツールに改訂された。



その2 2年生3学期 志望理由シート  
(本誌 2018年2月号)

将来、社会とどのようにかわりながら生きていくのかという観点と、自分が最も興味・関心を持っていることを今後も深めていくという観点から、志望理由を明確化させようと改訂したシート。自分の志望がどのような要素によって形づくられてきたのかを、過去、現在、未来の時系列を踏まえて可視化できるようなシートを考案した。



「一緒に改善して、私と一緒に学年主任に提案してみようよ」などと声をかけてみたいですね。  
**岡本** 理想、情熱がある若い先生を巻き込むことは、大きな変化のきっかけになるかもしれません。本校にも熱心な若手の先生が何人もいます。若手ゆえに、周囲に自分の考えをうまく伝えられていないことがあります。その熱意を大切にしたいと強く思います。  
**柳井** 私も、以前はツールを生み出したり、既存のものを改訂したりするために大事なことが分かっていませんでした。だからこそ、当時の私に伝えるつもりで、生徒が取り組みやすいか、問いかけの言葉は適切か、ツールのネーミングは目的とずれていないかなど、改訂の観

点を本コーナーで議論してきたつもりです。先輩から受け継いだツールも、目的に合わせて改訂していくプロセスを、若い読者の先生方に追体験してほしいと思っています。  
**編集部** 本コーナーはこれまで、異なる学校の先生に集まってもらい、1つの指導ツールを多様な視点で改訂してきました。次号の4月号からは、1つの学校を訪問して、その学校で使われている指導ツールを、同校の先生方で改訂するコーナーにリニューアルします。  
**柳井** 同じ学校でも、先生によって大事にしていることは違います。だからこそ、指導の本質を丁寧に確認し合う様子を誌面で伝えてもらえれば、私たち読者にとっては、指導の観点

のすり合わせ方などの参考になると思います。  
**高橋** その学校ならではの「こだわり」を持って改訂に取り組んでほしいですね。振り返ってみると、私は、「学力面で課題がある生徒でも活用できるか」という観点を常に大切にしていました。「こだわり」を持ち寄ることで、活かす具体的な議論ができると思います。  
**岡本** 同じ学校の先生が話し合うのであれば、ぜひ、その学校ならではの、高校3年間の連続性を意識した指導ツールの改訂と運用に挑んでほしいです。先生方が多忙を極めている現状があるからこそ、自校の指導の本質を教師同士が話し合うことの価値に、改めて気づかせてくれるコーナーになってほしいです。